

令和元年度 第5回倉吉市小学校適正配置協議会 概要

倉吉市教育委員会

本年度第5回小学校適正配置協議会が開催されました。今回は、鳥取市で校区再編に関わられた方を講師に校区再編・学校統合の経緯及び義務教育学校について講演していただきました。

「子どもにとって必要な力を育む」「9年間のスパンで子どもの成長を考える」「人づくりと地域づくりのバランスが大切」等、これからの議論を進めていく上で、たいへん参考になる視点を多く示していただきました。

◇日 時 令和元年11月19日(火)
午後7時～午後8時30分

◇場 所 上灘公民館

◇参加者 委員35名



1 開会

○教育長あいさつ

- ・グループ協議の中で、義務教育学校について聞いてみたいという意見があったことから、講演会を開催することとなった。また、20日、22日の学校視察もよろしくお願ひしたい。
- ・講師の木下特任教授は湖南学園の初代校長でもあり、またそれまでは鳥取市教育委員会次長、学校教育課長で湖南学園をどのような学校にしていくかという準備の段階から関わっておられた。そのような経緯があり、義務教育学校を創設するにあたってたいへんな苦勞をしておられる。そのような話を聞かせてもらい、参考にしたい。

2 講演 「義務教育学校で町づくり・人づくり」

島根大学教育学部附属教師教育研究センター 特任教授 木下 公明 氏



- ・子どもにとっていい環境である学校と地域の中での学校の存在意義は、時として対立するときがある。このバランスをどう調整するかが大切である。
- ・平成28年度学校教育法第一条に定められた学校として義務教育学校が追加された。学校存続の選択肢を模索するという考え方のもと、義務教育学校を鳥取市は積極的に導入している。すでに開校している湖南学園と鹿野学園と福部未来学園は小学校、中学校1校が統合したものであるが、来年開校の江山学園は小学校2校、中学校1校が統合する最初の取り組みだ。そこでまたいろいろな課題が出てくるだろうが乗り越えていかなければいけない。

- ・小学校6年間・中学校3年間計9年間を、中1ギャップや学力向上対策を考慮し、4・3・2制のブロック制で取り組み小、中の壁を取り払う発想が義務教育学校である。「そういう考え方のできるのか。」という柔軟な見方や考え方をもつ機会にしていきたい。
- ・9年の中で教育活動をダイナミックにつくってみるという教育論で考えて、小中一貫教育を取り入れた。人間関係の固定化を、ブロック制の導入で克服しようと考えたり、いろいろな行事を通して子どもを成長させるとともに、先生方の距離を縮めることを目指した。
- ・一貫校では小学校にも教科担任制を入れた。だから5、6年生のあたりで教科担任制として中学校の先生がどんどん入っている。また、新しい教科をつくることができたので、表現力の苦手な子供たちが多いという学校課題の克服を目指し、コミュニケーション科をつくって取り組んだ。
- ・湖南塾をつくったり、吉岡温泉のお湯で足湯をつくったりして、地域の人を引き込んでいった。
- ・小規模転入で他の校区から湖南学園に通学している子どもが現在33名。どんどん減るといわれていた学園の子どもの数は減っていない。
- ・町づくりは人づくり。人づくりは教育だと思っている。経済が活性化して便利な世の中になっても、人づくりができていないと町の発展はない。とにかく人づくり、これを大切にするための教育を大事にしたい。

- ・この統合にしても校区再編にしてもぜひ、教育がいかに大事かということが後世の子どもたちに伝わるような取り組みであってほしい。

3 質疑応答

①学校が遠くなった子どもたちに最初は金額的な面で支援していたということだが、スクールバスという考え方についてどう思われているかお聞きしたい。

→それぞれの市町村が考えられることであり、それは当然視野に入れることだと思う。交通費とかそういうことについては、もし統合ということになったらしっかり話をしていけばよいと思う。

②一貫校になって、保護者の見方・評価はどうだったか。

→一貫校導入までは賛否両論ありたいへんな場面もあったが、決定後は地域が一つになり盛り上げていただいた。現在は取り組みがスムーズにできているように聞いている。

③協議会でも様々な意見が出されている。これをどうやって進めていけばいいのかアドバイスをいただきたい。

→「来年や再来年は今の体制でも維持できるでしょう。今までもそれぐらいの数でやってきたんだから。」という思いがどうしても最後まであるが、50年後を考えた時にこの学校はどうなるのかということを考えてやるのが、大人の役目だろうと思っている。

④なぜ鳥取市は柔軟な考えでできたのかということをお聞きしたい。

→鳥取市が決していいわけではない。倉吉のやり方も一つの方法だと思う。当然、校区再編を考える時には、いろいろな問題がある。すんなり前進するような問題ではないと思っている。そこで柔軟性をもって検討していく選択肢の一つに、一貫校や小規模転入があったとお考えいただきたい。

⑤小学校2校と中学校1校を義務教育学校にする予定である鳥取市の江山校区のことについてお聞かせいただきたい。

→やっと軌道に乗って、いよいよ来年4月にスタートする。今回の江山のような複数校が一つになるとするのは初の取り組みであり様々な課題があると思う。じっくり注目していただきたい。

4 委員感想

◆保護者の立場で聞かせてもらった。木下先生が「子どもにとってよい環境」「とにかく子どもを1番に考えていかなければいけない」と話され、これまでの経験と一貫校について話が聞けてよかった。また、地域の方々の考えもよい方向に進んでいくことを望んでいる。

◆今までは、まず第1に子どものことを考えていたが、地域と力を合わせることもできるのだと思った。今までは、地域のことを考えていたら次に進まないと思っていたが、新たなあり方もあると感じた。とても勉強になった。

◆地域づくりと学校づくりは、切っても切り離せない関係（バランス）。じっくりと焦らず10年、20年後を見据えて取り組むべし。地域の思い、保護者の思いを大切にしたい。

◆地域の思いと、教育とのバランスをとるのはたいへんなことだと思うが、避けられないことなので向き合っていかなければならないと思った。

◆改めて教育の大切さを学ばせていただいた。学校の再編はとても大きな課題であり、避けては通れないので、今回の話をもとにしっかりと考えていきたいと思う。

◆講演を聞き、倉吉で議論されていることとかぶり、考え方・解決策などヒントが見えた。今後、具体案を提示され、検討を一步進めていくべきだと思う。

